第10回「共に生きる社会」めざして　高校生作文コンテスト　表彰式

高校生が医療、福祉などに触れた経験や感想を文章にまとめ、伝える「第10回『共に生きる社会』めざして　高校生作文コンテスト」（国際医療福祉大学、毎日新聞社主催、文部科学省、全国高等学校長協会後援）の表彰式が11月30日開かれた。会場の同大東京赤坂キャンパス講堂（東京都港区）で、入賞者はそれぞれの作品を朗読。表彰式に先立ち過去の入賞者らは、パネルディスカッションで「共生社会」をめぐって深く話し合った。

最優秀賞、優秀賞、佳作に輝いた高校生5人（前列）と、学校賞に選ばれた各校の代表

入選一覧

最優秀賞
山本彩佳さん（東京・桜美林高校１年）

優秀賞
竹尾和佳菜さん（愛知県立安城高校３年）
中西優奈さん（茨城・江戸川学園取手高校１年）

竹尾和佳菜さん

中西優奈さん

佳作
岩谷歩実さん（東京・白百合学園高校２年）
北原匠さん（広島・盈進高校２年）

岩谷歩実さん

北原匠さん

入選
朝妻航祐さん（新潟県立新潟高校３年）▽太田麻里菜さん（東京・東洋高校２年）▽瀬戸秀一さん（東京・八王子学園八王子高校１年）▽高橋健太さん（大分県立竹田高校３年）▽成田琴音さん（ＮＨＫ学園高校３年）

学校賞
茨城・江戸川学園取手高校▽東京都立国際高校▽東京・女子学院高校▽山梨英和高校▽静岡県立韮山高校▽福岡・久留米信愛高校▽大分東明高校

審査委員
大友　　邦・国際医療福祉大学長―審査委員長
松谷有希雄・国際医療福祉大副学長
新井田孝裕・国際医療福祉大副学長
荒木田美香子・国際医療福祉大教授
赤津　晴子・国際医療福祉大教授
川上　和久・国際医療福祉大教授
冠木　雅夫・毎日新聞客員編集委員
元村有希子・毎日新聞論説委員兼編集委員

次世代の思いに感銘

講評

大友邦 国際医療福祉大学長

高校生作文コンテストは本年、第10回を迎えることができました。前回の2137作品を大きく上回る2640作品という、過去最多の作文が寄せられました。

多くは応募者の実体験をもとに書かれており、高校生らしい新鮮な感性、率直な思い、情熱あふれる意見などが盛り込まれ、いずれも素晴らしい作品ばかりで、非常に感銘を受けました。

同時に、次世代を担う若い人たちが直面している医療・福祉の問題に目を向け、自己の将来像を模索する中で、これに真摯に向き合う姿に、強い感動と期待感を持つことができました。

国際医療福祉大学は「病める人も、健常な人も、互いを認め合って暮らせる『共に生きる社会』の実現」を建学の精神として掲げ、来年は創立25周年を迎えます。本学が最も大切にしている精神を「次世代を担う高校生にも理解してほしい」という思いから、毎日新聞社と始めたのがこのコンテストです。

医療・福祉の分野で、自分で考え、行動できる人材を育成してきた本学にとって、作文を介して若い世代の率直な思いを聞かせていただけることは、貴重な機会であり、教育の質の向上につながるとともに、重要な指針になると思っています。

開催趣旨

病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現を目指すことが国際医療福祉大学の建学の精神。それを次世代を担う高校生と一緒に考えるきっかけとするため、毎年開催している。

寄り添うために学ぶ

パネルディスカッション　**私と医療福祉** ～作文コンテストをきっかけに～

登壇者
▽田中秀一さん
国際医療福祉大学医療福祉学部長
▽稲葉莉帆さん＝浜松市保健師。第5回作文コンテストで佳作を受賞
▽高沼千晶さん＝同大保健医療学部言語聴覚学科3年。第7回作文コンテストで優秀賞
コーディネーター
元村有希子・毎日新聞論説委員兼編集委員

――稲葉さんはどうして保健師に。

稲葉さん　高校生のとき、保健師さんが祖母に保健指導をしているのを見て、憧れました。病気の予防にかかわる仕事が大事だと思ったからです。

――高沼さんが目指している言語聴覚士とはどういう仕事ですか。

高沼さん　話す、聞く、書く、読むなど言葉の問題のほかに、飲み込み、認知の問題について個人の特性を評価して訓練、支援をします。

――言語聴覚学科に入学したきっかけは。

高沼さん　私の弟には知的障害があり、幼いころから国際医療福祉大学大田原キャンパス（栃木県）内にある言語聴覚センターに通院していました。弟を担当してくれた先生のいる大学で勉強したいと思ったからです。

――これからの医療・福祉人材の役割は。

田中さん　少子高齢化が進み、ますます大切になっています。高齢者が増えることもそうですし、子どもを産み育てやすい社会、環境が求められているからです。この仕事にたずさわる人の役割は一層大きくなっています。

――コンテストの副賞で旅行したベトナムでは、どんな経験をしましたか。

高沼さん　病院を訪れると一つのベッドに2人寝ていたり、廊下にはみ出るくらいベッドが多かったり。理学療法士が作業療法も言語聴覚療法もしていて、日本の医療について考え直すきっかけになりました。

稲葉さん　当時の記憶はいまも鮮明です。日本では当然だと思っていたことが、そうではなかったり。こんなに自分の価値観が変わるんだと思いました。

――将来の目標は。

稲葉さん　この人になら任せてみよう、話してみよう、聞いてみようと思ってもらえる保健師になりたいです。いずれは極めたい分野を見つけて、地域全体を動かせるような仕事をしてみたいと思っています。

高沼さん　患者さんだけでなく、家族のサポートもできる言語聴覚士を目指しています。それにはコミュニケーション能力が必要なので、ボランティア活動や学童保育でのアルバイトをしています。

田中さん　患者本位、利用者本位の医療、福祉の実現を、といわれますが、簡単ではありません。患者や利用者に寄り添い、どう感じているのか、何を求めているのかを考え、知ろうとしなければなりません。医療、福祉にかかわる人には、さまざまな体験をし、人に会い、話を聞く経験を重ねてほしいです。

――作文コンテストのテーマ「共に生きる」について考え方を聞かせてください。

高沼さん　私はコンテストで受賞した作文に、差別や偏見のせいで生きづらいと書きました。差別や偏見の原因は、知識がないことだと思います。障害について正しい知識を持つことが大事だと思っています。

稲葉さん　家族観や障害についての考え方は人それぞれですが、なかには高齢者や障害者に対して非常に偏った考え方を持つ人もいます。真実を正しく知ることが大切だと考えています。

「共生社会」に必要な取り組みについて意見を述べ合った（左から）田中さん、稲葉さん、高沼さん

最優秀賞

ありのままの自分で

東京・桜美林高校1年　山本彩佳さん

「車椅子に乗るのは、恥ずかしい」

4年前、中学入学と同時に車椅子に乗ることになった。

私は生まれつき、筋肉が他の人よりも少ない難病で、体が大きくなるにつれて走ることやジャンプをすること、階段の上り下り、長距離を歩くことなどができなくなった。小学校低学年までは皆と同じように生活できていたが、高学年になり徐々に転びやすくなってきた。一度転んでしまうと、自分で立ち上がることができない。周りの勧めもあって、4年生からは杖（つえ）を持って登校するようになった。周りからはジロジロと見られるその視線が、とても嫌だった。

入学した中学は、エレベーターはあったが校舎が広く、歩いていくのが大変な場所もあった。そのため、移動教室の時は車椅子に乗ることにした。車椅子を使うことについては、正直、大きな葛藤があった。小学校の時の杖ですら周りからの視線が恥ずかしかったから、車椅子に乗ることでいろいろな目で見られると思ったからだ。

しかし、いざ生活してみると、私の予想とは違った。周りの子は思ったより、すんなりと車椅子に乗った私を受け入れてくれたのだ。「車椅子押そうか？」と言って、押してくれた子。雨の日に濡（ぬ）れないように傘をさしてくれた子。「車椅子をこぐ姿、かっこいい」と言ってくれた子。不思議なことに、学校内では周りからジロジロと見られることもなかった。ありのままの自分を受け入れてくれたということがとてもうれしかった。

校舎内には緩やかではあるが、手でこぐのが難しい傾斜もある。その場所で私はいつも苦戦する。うまく上れたと思っても、油断すると滑り落ちてしまう。その場所で苦労していると、「押すよ」と、すっと後ろから押して手伝ってくれる子がいる。私は「ありがとう」とひと言しか言えなかったけれど、胸が熱くなるほどのうれしい経験が何度もあった。「押すのは楽しいから、またいつでも言って」と知らない先輩や同級生が声をかけてくれて、その度に私の交友関係も広がった。

高校1年生になり、新たに外部受験で1年生が入学してきた。その子たちも、私の車椅子を受け入れ、手伝ってくれる。ある日のこと、私が傾斜でてこずっていると、後ろで「あっ、車椅子の子」という声がした。そして、すぐに車椅子が軽くなった。「押すよ。あっ、さっきの言い方嫌だよね？」と言われてふと気がついた。「車椅子の子」と言われて、嫌な気持ちにならない自分がいた。4年前の私にとって、車椅子に乗るということは、一つの大きな壁だった。しかし、周りの友人のお陰で、私はその壁を乗り越えることができたのだ。車椅子も私の一部だと思えるようになっていた。みんなが私の価値観を変えてくれたのだ。

車椅子に乗って最初に驚いたことは、見える景色が変わったことだった。目線が低くなったことで、今まで気づかなかったものに、気づくようになった。何気なく通っていた場所に、段差や傾斜があり、そこは私にとっては大変な場所に変わった。車椅子に座ってみると、人が大きく見え、周りの人との距離が広がったような気になった。周りとの違う自分。孤独を感じ、閉鎖的な気持ちになった。しかし、私の思いに反して、車椅子に乗ったことで、人の心の優しさに触れることができた。

病気を考えると、これから先もいろいろな困難が待ち受けていると思う。それでも逃げずに、その現実を受け入れたい。現実を受け入れ、生きていく中で、新しい価値観に出会え、人生がもっと豊かに変わると信じているからだ。そして、私がこれまで受けてきた数々の好意や励ましに、少しでも報いるために、社会の中で私ができることを見つけていきたい。

（原文のまま掲載しました）

特待生224人と医学部特待生50人を選抜

〈特待奨学生B選抜〉

対象学部	特待奨学生Ｂを選抜する入試	選抜人数	奨学金給付額（奨学金は各年度の授業料に振り替えます）
全学部 ※成田看護・小田原保健医療・福岡看護・医学部除く	一般入試前期	最大112人	授業料の 30% 相当額
	大学入試センター試験利用入試	最大112人	

【2020年度入試日程（医学部除く）】※一般入試前期は試験日選択制。複数回受験の場合、入学検定料割引

入試区分	学部	試験日	試験地	出願期間［消印有効］
一般入試前期	保健医療学部	1/28（火）	盛岡・仙台・大田原・水戸・高崎・成田・東京	12/24（火）～1/17（金）
		1/30（木）	郡山・大田原・成田・東京・長野・小田原・静岡・福岡	
	医療福祉学部	1/29（水）	盛岡・仙台・大田原・水戸・高崎・成田・東京	
		1/31（金）	郡山・大田原・東京・長野・小田原・静岡・福岡	
	薬学部	1/29（水）	盛岡・仙台・大田原・水戸・高崎・成田・東京・山口・北九州・福岡・大川・佐賀・熊本・大分・鹿児島・沖縄	
		1/31（金）	郡山・大田原・東京・長野・小田原・静岡・福岡・大川・長崎・宮崎	
	成田看護学部 成田保健医療学部	1/29（水）	仙台・大田原・水戸・高崎・成田・東京・小田原	
		1/30（木）	大田原・成田・東京・小田原・静岡	
	赤坂心理・医療福祉マネジメント学部	1/28（火）	仙台・大田原・水戸・高崎・成田・東京	
		1/31（金）	郡山・大田原・東京・小田原	
	小田原保健医療学部	1/29（水）	水戸・高崎・成田・東京・横浜・小田原	
		1/31（金）	東京・長野・横浜・小田原・静岡	
大学入試センター試験利用入試	全学部	個別学力検査等は実施しません。大学入試センター試験：1/18（土）・1/19（日）		

上記のほか一般入試後期、社会人・留学生特別選抜入試を実施します

〈医学部特待奨学生選抜〉

対象学部	医学部特待奨学生を選抜する入試	選抜人数	奨学金給付額（奨学金は各年度の学生納付金に振り替えます）	6年間の学生納付金額（奨学金給付前→奨学金給付後）
医学部	一般入試	最大45人	6年間総額 1,400万円 ＋ 入学金150万円免除（入学後に返還）	1,850万円 → 300万円 ※国立大学より安い学費で進学
	大学入試センター試験利用入試	最大5人		

【医学部 2020年度入試日程】

入試区分		試験日	試験地	出願期間［消印有効］
一般入試	一次選考	学力試験・小論文 1/21（火）	成田・東京・大阪・福岡	出願受付中 締切：1/9（木）
	二次選考	個人面接 1/28（火）～2/2（日）のうち1日	成田・東京	
大学入試センター試験利用入試	一次選考	大学入試センター試験 1/18（土）・19（日）	―	出願受付中 締切：1/17（金）
	二次選考	学力試験・小論文 2/14（金） 個人面接　2/18（火）	成田・東京	

TOPICS1　2020年4月、新学部・学科 開設
成田保健医療学部 放射線・情報科学科（成田キャンパス）
福岡薬学部 薬学科（6年制）（大川キャンパス）

TOPICS2　2020年4月、「国際医療福祉大学成田病院」（642床）開設
本学6つめの附属病院を千葉県成田市に開設。先進医療、最高水準の医療機器、日本最大級の予防医学センター、多言語・多文化に対応した体制整備などで、アジアを代表する世界的なハブ病院をめざします。

国際医療福祉大学成田病院（2019年10月撮影）

国際医療福祉大学大学院

保健・医療・福祉の高度専門職へのキャリアアップを支援する4つの研究科

■医療福祉学研究科（博士課程／修士課程）
■薬学研究科（博士課程）
■薬科学研究科（修士課程）
■医学研究科（博士課程／修士課程）

「働きながら学びたい」社会人が学びやすい3つの特長

❶ 東京赤坂・大田原・成田・小田原・熱海・福岡・大川に7つのキャンパスを設置
❷ 遠方のキャンパスの講義をリアルタイムで受講できる「同時双方向遠隔授業システム」
❸ 多くの授業を平日夕方以降と土曜日に開講。eラーニング科目や休暇期間の集中講義も充実

※修士課程は、大卒者に限らず、短大・専門学校を卒業した満22歳以上の方も出願可能です（出願資格審査あり。国家資格保持等の条件を満たしている必要があります）

◆地域に開かれた心理相談機関
国際医療福祉大学大学院「赤坂心理相談室」
https://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/soudan/

◆夜間に学べる本格的生涯教育「乃木坂スクール」
https://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/nogizaka/

国際医療福祉大学

入試のお問い合わせ　入試事務統括センター　TEL:0476-20-7810　E-mail:admission@iuhw.ac.jp
大学院のお問い合わせ　東京赤坂キャンパス入試事務室　TEL:03-5574-3903　E-mail:daigakuin-nyushi@iuhw.ac.jp

大田原キャンパス　栃木県大田原市北金丸2600-1　TEL.0287-24-3200（入試事務室）
■保健医療学部　看護学科／理学療法学科／作業療法学科／言語聴覚学科／視機能療法学科／放射線・情報科学科
■医療福祉学部　医療福祉・マネジメント学科（社会福祉コース、精神保健福祉コース、介護福祉コース、診療情報管理コース、医療福祉マネジメントコース）
■薬　学　部　薬学科（6年制）
成田キャンパス　千葉県成田市公津の杜4-3　TEL.0476-20-7810（入試事務統括センター）
■医　学　部　医学科　■成田看護学部　看護学科　■成田保健医療学部　理学療法学科／作業療法学科／言語聴覚学科／医学検査学科／放射線・情報科学科（2020年4月開設）
東京赤坂キャンパス　東京都港区赤坂4-1-26　TEL.03-5574-3903（入試事務室）
■赤坂心理・医療福祉マネジメント学部　心理学科／医療マネジメント学科
小田原キャンパス　神奈川県小田原市城山1-2-25（本校舎）　TEL.0465-21-0361（入試事務室）
■小田原保健医療学部　看護学科／理学療法学科／作業療法学科

ほかに福岡キャンパス（福岡県福岡市）、大川キャンパス（福岡県大川市）を設置

大学案内を無料で郵送